

緊急住民アンケート調査結果

資料5-2

調査の概要

- 調査方法 大津波警報が発表された青森・岩手・宮城県の36市町村の中で、避難指示・勧告が発令された地域の住民に対し、電話帳より無作為に5,000名を抽出して、アンケート調査票を郵送・回収
- アンケート実施期間 3月15日(発送)～31日(回収数2,007票、回収率40%)

調査結果

避難率

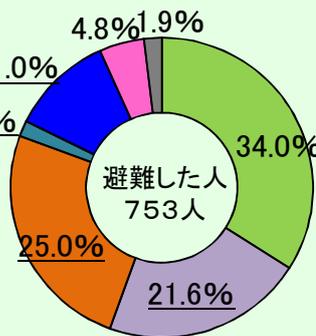
避難率は、37.5%であった。
(指定避難場所以外への避難を含む)



- 避難した
- 避難しなかった(必要性は感じていた)
- 避難しなかった
- 無回答

避難先

避難した方の約6割が「指定避難場所以外」への避難であり、指定避難場所へ避難した方の2倍近くであった。

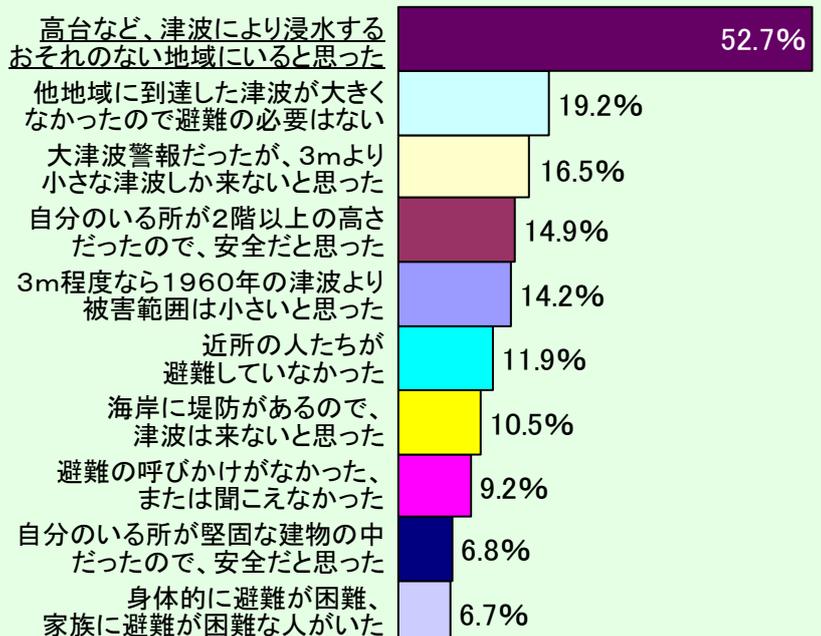


- 公民館や学校など、市町村が指定した避難場所
- 津波の危険がない、屋外の高台
- 津波の危険がない、親戚・知人宅
- 津波の危険がない、頑丈な建物の高い所やビルの2階以上
- 津波が到達しない安全な地域へ外出していた
- その他
- 無回答

避難しなかった理由

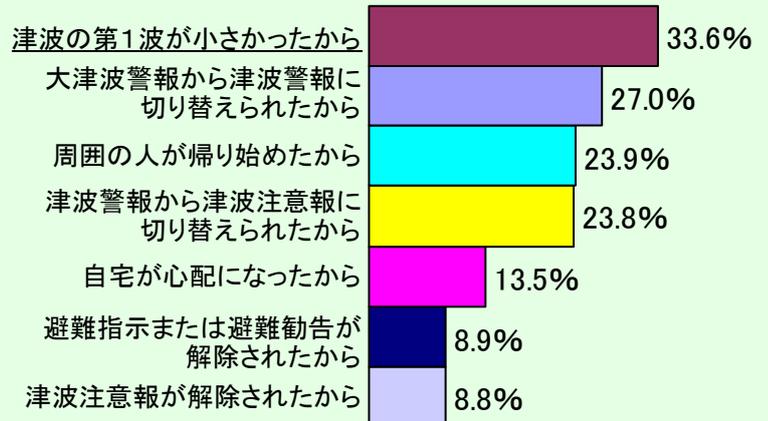
半数以上(52.7%)が「高台など、津波により浸水するおそれのない地域にいると思ったから」と回答。

これは、避難指示等の対象地域が、過去最大級(高さ10mなど)の津波を想定したハザードマップを基に発令されたものであり、今回の3mの警報に対しては広がったためと考えられる。



帰宅したきっかけ

「津波の第1波が小さかったから」が3割強で最も多かった。



避難先からの帰宅時間

津波の高さが第2波以降で最大となる可能性があることを知っていた方は、知らなかった方に比べ避難先からの帰宅時間がより遅くなる傾向がみられた。

